

外部評価意見への対応方針 (交通局)

【様式6】

番号	外部評価意見	対応方針 (25年度局運営方針(案)に反映されている場合は、その反映状況についても記載してください。)	対応方針の分類 (※参照)
1	<p>戦略1-1「さらなる安全性の強化」では、重大インシデント以外の事故に関してアウトカム指標を示すとともに、具体的取組でのアウトプットを中間アウトカムにレベルアップすることで、各取組がアウトカムにどう繋がっていくのか道筋を明確にされたい。</p>	<p>「さらなる安全性の強化」の新たな戦略として「安全方針の各項目を職員ひとり一人が実践することで、高い安全意識に支えられた組織とする。」とした。これは指標として示せるものではないが、職員ひとり一人の意識を高め、継続的に実践するものである。</p> <p>アウトプットとして「外部講師による講演会の開催」「輸送の安全にかかわる職員に安全研修の実施」「過去の事故やトラブルの社会的影響など安全研修施設での全職員への研修実施」により地道に全職員のレベルアップを図っていくことが重要である。</p> <p>以上より、安全方針の各項目を職員ひとり一人が実践することで、高い安全意識に支えられた組織を目指し、各アウトプットの設定項目を実施することにより、職員のスキルを向上させ、重大事故・重大インシデントの撲滅へつながっていくと考えている。</p>	④
2	<p>犯罪の減少に防犯カメラの設置がもたらす効果が不明であり、警察の捜査への協力等による検挙率の増加といったアウトカムの設定も今後は検討されたい。</p>	<p>警察への捜査協力等による検挙率の増加については、警察から当局の防犯カメラの映像の提供により検挙につながったかどうかを示すデータの提供を受けることができないため、アウトカムの設定については困難である。</p> <p>ただし、駅構内における痴漢スリ届出件数については、平成19年度と平成23年度を比較すれば、痴漢届出件数は153件から138件、スリ届出件数は40件から12件に減少している。加えて、警察からの捜査協力依頼(防犯カメラの映像提供依頼)については19年以降、増加しており、防犯カメラが抑止力のひとつになっていると考えている</p> <p>今後とも、防犯カメラとあわせて、巡視や鉄道警察隊との連携に努め、犯罪等の減少についての取り組みを継続する。</p>	①
3	<p>戦略1-2「利便性・快適性のさらなる向上」は、突き詰めると乗客数の増加ということになる。例えばICカードの利用促進により新規乗客が増えたかどうかについて、パーソントリップ調査結果の活用や全域では無理だとしてもポイントを絞ったアンケート調査等により、取組による効果を数値的に測定しアウトカムに活用されたい。</p>	<p>23年度運営方針におけるアウトカムについては、数値化を行っておらず、抽象的な表現となっておりましたが、24年度より全ての項目において数値化することとした。</p> <p>今後も、数値化したアウトカムにより客観的な効果測定に取り組むこととしている。</p>	①

※ 対応方針の分類 ①：24年度に対応済み ②：25年度局運営方針に反映または25年度に対応予定 ③：引き続き検討 ④：対応困難または対応不可 ⑤：その他